



足利尊氏の弟で「両将軍」の政務担当

# 足利直義

あしがきただよし

徳治元年（1306年）－  
正平7/文和元年2月26日（1352年3月12日）

## 死因 ● 毒殺？

足利尊氏の弟で、室町幕府初代将軍の兄を補佐。「両将軍」と称され、幕政では政務全般を取り仕切った。  
贈り物や貢ぎ物を受け取ることを嫌い、法や秩序を重んじる非常に清廉な性格で、寛容でおおらかな兄とは対照的だったとされる。だが、こうした直義の厳格さが武断派の高師直との対立を生み、観応の擾乱へと繋がった。

高兄弟を殺害し、尊氏と和睦した後は北朝（室町幕府）に復帰。尊氏の嫡子・義詮の補佐として再び政務を担う。だが、尊氏が近江と播磨で反直義の態勢を整え始めると、京から北陸へ脱出。鎌倉で尊氏を迎え撃つたが敗れ、降伏した。浄妙寺境内の延福寺に幽閉された直義は1ヶ月後に急死するが、病死とも尊氏による毒殺ともいわれる。

「源頼朝像」（神護寺蔵）



## 源頼朝ではなく足利直義だった？ 論争される肖像画

日本史の教科書に掲載されている源頼朝の肖像画は、『神護寺三像』のうちの一枚。『神護寺三像』には、公家の正装を身につけた三人の男性が描かれており、それぞれ源頼朝、平重盛、藤原光能の肖像画であるといわれている。作者は、藤原隆信と伝えられる。

しかし、平成の教科書では断定を避けて「伝源頼朝像」などとぼかしている。これは、1995年に米倉迪夫氏が、伝源頼朝像は足利直義像であるという説を発表したことに端を発する。

その後、米倉氏の説に対する反論も出されたが決め手はなく、今も論争は続いている状態である。

「足利尊氏と伝えられる騎馬武者像」京都国立博物館蔵



京都国立博物館所蔵のこの『騎馬武者像』は伝足利尊氏として有名だが、近年では高師直、もしくは子の高師詮、従兄弟の高師冬であるという説も。

## 足利兄弟確執の経緯図

